

件 名

自立心をはぐくみ絆を深める道徳教育推進事業について

提出理由

自立心をはぐくみ絆を深める道徳教育推進事業について、別紙のとおり報告します。

概 要

- 1 道徳の教科化
- 2 「特別の教科 道徳」に求められていること
- 3 事業の概要
 - (1) 市町村の特色ある道徳教育への支援
 - (2) 「匠の技」の伝承
 - (3) 道徳教育に係る外部講師派遣
 - (4) 「彩の国の道徳」研究推進
- 4 事業の内容
- 5 成果と今後の方向性

1 道徳の教科化

学習指導要領等の一部改正 (H27.3.27)

「道徳の時間」 「特別の教科 道徳」

背景：グローバル化など社会が変化する中で、様々な文化や価値観の存在を認識し、自ら考え、協働する能力が必要になり、発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善、指導方法の工夫が求められた。

変わったこと	「特別の教科 道徳」(道徳科)
主たる教材	・ 教科用図書(教科書)
評価	・ 道徳の授業において児童生徒を評価し、 指導要録に文章で記載する。

↓
・ 「児童生徒の学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を評価する。

変わらないこと	「特別の教科 道徳」(道徳科)
ねらい	・ 道徳科と全教育活動(道徳教育)でよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
授業時数	・ 道徳科の授業を年間35時間以上行う。(小1は34時間)

2 「特別の教科 道徳」に求められていること

- ・ 授業の量的確保（35時間以上）
- ・ 「考え、議論する道徳」の授業への質的転換（主体的・対話的で深い学びの実現）
- ・ 情報モラル等の教育課題への対応
- ・ 指導すべき内容項目への理解

- A 主として自分自身に関すること
【善悪の判断、自律、自由と責任】【正直、誠実】【節度、節制】【個性の伸長】【希望と勇気、努力と強い意志】
【真理の探究】
- B 主として人との関わりに関すること
【親切、思いやり】【感謝】【礼儀】【友情、信頼】【相互理解、寛容】
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
【規則の尊重】【公正、公平、社会正義】【勤労、公共の精神】【家族愛、家庭生活の充実】
【よりよい学校生活、集団生活の充実】【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】【国際理解、国際親善】
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【生命の尊さ】【自然愛護】【感動、畏敬の念】【よりよく生きる喜び】

解決の手立て(課題)

教員の指導力向上、家庭・地域との連携強化

3 事業の概要

「自立心をはぐくみ絆を深める道徳教育推進事業」

～ 規律ある態度を身に付け、夢や目標に向かってたくましく生きることができる子供の育成～

(1) 市町村の特色ある道徳教育への支援

郷土教材等の活用や地域と連携した活動

(2) 「匠の技」の伝承

道徳授業「匠の技」伝承 講師派遣

(3) 道徳教育に係る外部講師派遣

夢と豊かな心をはぐくむ講演会の実施

(4) 「彩の国の道徳」研究推進

道徳教育研究協議会の実施
「彩の国の道徳」教材の活用

4 事業の内容

(1) 市町村の特色ある道徳教育への支援

郷土教材等の活用や地域と連携した活動

・ 特色ある道徳教育の推進（5市）

- 【深谷市】市作成の副読本「渋沢栄一翁ころごし読本」を使用し、郷土の偉人「渋沢栄一」の生き方を学んだり、地域の人から故郷を学んだりする「ふるさと教育」を実施
- 【鴻巣市】「心の先生（パラアスリート・車いすバスケットボール選手）を招いた体験学習を通じた道徳教育を実施
- 【幸手市】市独自の郷土教材「道徳のまち さって」を使った公開授業や外部講師を招いた「幸手市道徳週間」を実施
- 【本庄市】日本サッカー協会（夢の教室）と連携した道徳教育を実施
- 【草加市】大学教授等の外部講師を招き、教員の指導力向上を図る授業研究会を全校で実施

・ 埼玉県道徳教育研究推進モデル校による研究推進（8校）

学習指導要領の趣旨及び児童生徒の実態を踏まえた創意工夫のある研究や「彩の国の道徳」を活用した研究を行い、指導方法や評価の工夫、家庭・地域との連携等について研究の成果を県内に広く発信する。

和光市立第五小学校・入間市立豊岡小学校・寄居町立男衾小学校・越谷市立蒲生南小学校
朝霞市立朝霞第五中学校・三芳町立三芳中学校・深谷市立豊里中学校・越谷市立中央中学校

4 事業の内容

(1) 市町村の特色ある道徳教育への支援

郷土教材等の活用や地域と連携した活動(例)

渋沢栄一翁を通した ふるさとを愛する態度の育成(深谷市)

「渋沢翁 語らいの日」(令和3年11月11日)の取組

- ・ 学校長による「渋沢栄一翁没後90年の講話」
- ・ 「渋沢栄一翁こころざし読本」を使用した道徳科の授業
- ・ 「煮ぼうとう」等の渋沢栄一翁ゆかりのある学校給食の実施
- ・ 学校便りや学校ホームページで家庭・地域に発信 等

渋沢栄一翁没後90年 「まごころ訪問」事業の実施

市内の一人暮らしの高齢者に、小学生が育てた藍葉で叩き染めをしたコットンバックと小学生が育てた花苗に、手紙を添えて贈る活動

道徳教育研究推進モデル校による 研究推進(深谷市立豊里中学校)

- ・ 教員向けの授業作成シートや生徒向けの道徳ノートを使って、生徒の考えの変化や成長の様子を可視化することで授業改善を図った。
- ・ 道徳便りを配布し、家庭内で道徳的なテーマの会話をしてもらうきっかけづくりをした。
- ・ 地域の方による伝統芸能体験により、地域の人と交流する機会を作った。



モデル校における郷土教材を使用した授業研究会の様子

4 事業の内容

(2)「匠の技」の伝承

道徳授業「匠の技」伝承 講師派遣

- ・道徳教育に見識の高い講師が教員に対して「特別の教科道徳」に係る指導・助言を行う。



講師が学校で示範授業をしている様子

指導助言の例

・講師が示範授業を通して、道徳科の指導方法や評価について参観した教員に手本を見せる。示範授業後には、授業の解説をしたり研究協議を行ったりすることにより、教員の指導力向上を図っている。

実績

- ・ R 3 小学校 10回
中学校 2回
- ・ R 4 小学校 18回
中学校 11回
教育委員会 2回
(予定含む)

～実施した学校から（教員の声）～

教師と子どもとの関わりを前提としていることを再確認することができた。また、発問構成や豊かな語り合いのための方策を学ぶこともできた。

道徳教育の重要性を理解できるとともに、様々な授業実践を紹介していただくことで、2学期からの本校の道徳に即時活用できる内容であった。

4 事業の内容

(3) 道德教育に係る外部講師派遣

夢と豊かな心をはぐくむ講演会の実施

・第一線で活躍する著名人（**こころの先生**）を学校に招き、児童生徒に命の大切さや夢に向かう大切さなどを伝える。

（連携先）

 **JFAこころのプロジェクト**

 **独立行政法人 国際協力機構**




埼玉西武ライオンズ

 あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP



公益社団法人 埼玉県看護協会

 埼玉県公安委員会指定 / 犯罪被害者等早期援助団体
公益社団法人 埼玉犯罪被害者援助センター
支所 影の国サポートセンター

・学校選択による実施

実績

- ・ R3 小学校36回
中学校11回
- ・ R4 小学校44回
中学校12回
(予定含む)



西武ライオンズ



国際協力機構



パラアスリート



エンジニア

～実施した学校から（教員や児童の声）～

体験した方のお話、エピソードを聞くということは、児童にとって自分にとっても「できそうだ」「やれそうだ」と思える一番の教材である。（教員）

夢については何となくしか考えていなかったけれど、とにかく今自分がどれだけ一日一日を大切にしていけるかが大事だということが分かりました。（児童）

4 事業の内容

(4)「彩の国の道徳」研究推進

道徳教育研究協議会の実施

・道徳教育の推進を目的に、教員の指導力向上や道徳教育推進教師の育成を図る。

【対象】・各小中学校の道徳主任・道徳教育推進教師
3年間で全ての小中学校の対象者が受講

【内容】・1日目 小中学校**授業研究会**（授業参観・自己の実践を基にした協議）
・2日目 **研究協議会**（道徳教育推進教師を対象とした研究協議や講演）



板書を振り返り、教員の授業力向上を図る**授業研究会**



道徳教育推進教師の役割や推進上の工夫改善について協議する**研究協議会**

4 事業の内容

(4)「彩の国の道徳」研究推進

「彩の国の道徳」教材の活用

- ・ 県の偉人や地域行事、名所を題材とした内容や「規律ある態度」の育成に関わる内容（埼玉県独自の教材）



県独自の道徳教材「彩の国の道徳」



情報モラルをはじめ、子供たちが直面する現代的な課題や社会的な問題が題材の**新教材（令和3年度作成）**



家庭用「彩の国の道徳」リーフレット

5 成果と今後の方向性

取組の成果

- ・「特別の教科 道徳」への教員の理解が深まり、教科化が円滑に進んだ。

道徳教育研究協議会に参加した教員のアンケート結果（R3）

「新学習指導要領の趣旨などについて理解できたか」

72.6%がそう思う 26.5%がどちらかといえばそう思うと回答

- ・「考え、議論する道徳」を実現するための指導方法の実践が図られた。
- ・モデル校等の実践事例の共有により、学校と家庭・地域との連携に向けた教職員の意欲が高まった。

～本事業に参加した教職員の声～

「考え、議論する道徳」についての指導方法についてとても参考になり、ぜひ実践したいと思った。評価についても校内で共通理解を図って進めたいと思う。

家庭・地域との連携を図る実践について、研究推進モデル校の取組事例がホームページに載っていて、自校で行うときにとても役に立った。

今後の方向性

- ・授業研究会等を通じて、ICTの活用など指導方法の工夫を推進し、道徳科の質的向上を図る。
- ・道徳教育研究推進モデル校や「彩の国の道徳」等を活用した研究を進め、より一層の学校、家庭・地域の連携による道徳教育の実現を図る。

モデル校におけるタブレットを使用した授業研究会の様子

